

# INTERKYOTO

インターキョウト



1998.7. No.8

京都情報サービス産業協議会

平成10年度通常総会を開催

## 京情協設立5年目を向かえ37会員まで組織を拡大する

京都情報サービス産業協議会の平成10年度通常総会が4月23日、平安会館の白河の間で午後2時半から開催されました。来賓には京都府から商工部産業推進課参事伊藤秀一氏、同産業技術係長家次昭氏、中小企業総合センター経営部経営課長山下晃正氏、また、京都市から産業観光局商工部産業振興課長石田達氏、同振興係長大黒康史氏にご臨席いただきました。

初めに事務局から出席された新会員の方々の紹介があり、引き続き当協議会の白石会長から開会の挨拶がありました。議長の選出では白石会長が選出され議案審議が行われました。

第1号議案、2号議案で平成9年度の事業報告と決算報告、監査報告が行われ承認され、第3号議案では全役員が任期満了に伴う役員改選が行われ、白石会長〔重任〕、小島副会長〔重任〕、小室副会長〔重任〕、諸岡監事〔重任〕が選任されました。また第4号議案では幹事6名の任期満了に伴う改選でオムロンソフトウェア(株)〔重任〕、(株)京信システムサービス〔重任〕

京都電子計算(株)〔重任〕、けいしんシステムリサーチ(株)〔新任〕、(株)ケーケーシー情報システム〔重任〕、(株)総合システムサービス〔重任〕、(株)ユニシス〔新任〕、ワールドビジネスセンター(株)〔重任〕の2社幹事が増員され8社が選任されました。

第5号、6号議案で平成10年度の事業計画と事業予算が審議され全て原案通り承認されました。

審議終了した後、来賓を代表し、府の伊東参事と市の石田課長からご挨拶をいただきました。

小島副会長による閉会の挨拶の後、会場を移し記念講演会として京都市立伏見工業高等学校ラグビー部総監督の山口良治氏から「熱き感動を求めて」と題してお話をいただきました。(3頁写真)

最後は懇親会に移り、諸岡監事の開会挨拶、ご来賓の府中小企業総合センターの山下課長と財団法人京都産業情報センター情報化推進部の児玉部長にご挨拶いただき、市の大黒係長に乾杯をお願いし、参加者の交流懇親を深めました。

平成10年度通常総会

## 白石会長の開会挨拶



ご来賓の皆様、また会員の皆様、多数ご出席をいただきまして厚くお礼を申し上げます。

平成10年度の通常総会の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。この協議会活動の一年を振り返ってみますと、会員数が増え、新たに12社の会員を迎える事になりました。また、この協議会が設立してから4年余りになりますが、ほぼ2.5倍の37会員という規模になったこととなります。また、事業活動の面で申しますと、会員交流会を開催する一方で財団法人の京都産業情報センターさんと共催で情報化月間行事フォーラムを開催したことなどがございまして、社会公益的な活動も行った事で、この協議会といたしましても一歩、大きな成長をした1年ではなかったかと思えます。これも全会員の皆さんの大変な熱意は勿論のことでございますけれど、本日ご臨席を賜りました行政各位の絶大なるご支援を賜ってまいりました事を、この席を借りて改めて感謝を申しあげる次第でございます。

本日は、平成10年度の事業計画案について、ご審議を頂きますが、今の日本の経済の状況は皆さんも良くご承知の通り大変厳しい状況にあります。先般も公的資金の導入がされましたが、いっこうに企業の倒産数が減らないという状態でございますし、また併せて

16兆円という大規模な大型経済対策が発表されましたが、どうも今一つ市場が反応を示さない。ここに来て特にこれまでにない不況という事で、現内閣の政治責任問題が非常に激しくなってきました。この経済不況と併せて政治自体にも非常に大きな影響があるではなからうか。さらに大きな打撃にもつながることを今日的に考えれば、非常に大変な時期ではないかと考えます。これを乗り越えていかななくてはならないのですが、我々の業界はこれまでの所、幸いと申しましょうか比較的好調に推移していますし、将来的に考えても非常に明るい展望があります。その意味では今、経済的には色々問題のある中で非常に活力ある産業の一つであると言えます。

こういった中で我々としてもこの不況感に惑わされる事なく我々自体が元気な所を見せて、少しでも明るさが提供できればと思っております。この為には行政の方々の大きなバックアップを是非お願いをしたい。行政の方々も声を大にさせていただいて非常に元気のある業界もあることをもう少しPRをしていただく必要もあると思います。行政の皆さんに本日ご出席をいただいておりますが、是非お願いを申し上げたいと思います。協議会も益々これまで以上の元気を我々自体が出して、今年が協議会の飛躍する一年であることにしたいと思っています。

本日、この総会での議案審議をお願い申しあげる次第であり、また大変お忙しい中、ご来賓としてご臨席を賜りました京都府、京都市の皆さん方には今後とも引き続き暖かいご支援、ご指導を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。終わりにご参加いただきました皆様のご健勝と、この協議会の益々の発展を心から祈念いたしまして一言、開会のご挨拶とさせていただきます。

どうも有り難うございました。



## 総会併催行事

京都市立伏見工業高校ラグビー部 総監督

## 山口良治氏の講演



## 部会活動報告

企画広報部会の今年の活動  
奥村部会長<オムロンソフトウェア(株)>

今年度も昨年度より引き続き「会員相互の意志疎通と総意の結集」を目指して部会活動を開始いたしました。部会メンバーの各社を改めてご紹介をいたします。  
(株)アクシス、アド・プロビジョン(株)、オムロンソフトウェア(株)、(株)カワイプロ、(株)京信システムサービス、(株)近畿リサーチセンター、(株)システムディ、システムプロデュース(株)、中信コンピュータアンドコミュニケーション(株)、(株)モードス、山川(株)の以上11社で構成し、部会合におきましては和やかなうちにも、各テーマに対しては真摯な討議を重ねてまいり、その状況は次のとおりです。

1. 当「会報誌」の刷新  
まずは会員各社の皆様、この「会報誌」は如何ですか。

是非ご感想ご意見を頂くとともに、皆様からのPRや近況のご寄稿も含めより充実したく考えています。

なお、今回号より他府県の関係協議会にも配布いたしますのでお含み下さい。

2. 98年度「会員会社名簿」冊子の発行

従来の様式からフリースタイルとし、原稿を収集しています。未提出の会員様は早くご提出下さい。

3. 秋期総会・併催行事の計画

全国情報月間に因んで行う併催行事について今年度は(財)京都産業情報センター・設立20周年記念事業の行事と合い携えて実施しようと計画化への協議進行中であります。

4. 当協議会の「ホームページ」の設置検討

具体的なデザイン・記事内容・会員各社とのリンク・設置後のメンテナンス・費用など検討のうえ素案をまとめ、今年度中に機関審議へ諮りたく進行中であります。

以上、会員各社様のご支援・ご協力をよろしく申し上げます。

## 経営部会の活動方針と今後の計画

古川部会長 <(株)総合システムサービス>

「出回っている経営統計情報(資料)は、情報サービス産業に限定されるものが少なく、余り参考にならない。経営部会で紹介される各社の実状報告は、課題対応を考えるうえで非常に参考になる。」と会員の一人から、そう言う主旨の発言がありましたように、正式な記録としては残らない経営部会に出席した人だけが享受出来る貴重な情報が、当部会の真骨頂でしょう。

確かに、会社歴史の差(社員平均年齢)から多くの会社にとり5年後、10年後に直面する問題を既に対処され、貴重な経験から生み出された教訓の実状報告等の時間を比較的確保出来ている部会です。

総会の事業計画には、中小企業総合センターの業況短期観測(情報サービス業)に協力する事から3ヶ月毎に開催し、そのうち2回は会員セミナー(全会員対象)として実施する事が決定しております。

一年間を振り返ると人事労務関連中心の議論を進めてきましたが、新規会員を加え13社の部会では、よりタイムリーな経営課題(今年度第1回の会員交流会セミナーで改正男女雇用機会均等法：99年4月施行)を多岐にわたり取上げながら、かつ各社の実状報告の時間確保を充分考慮した部会運営を心がける所存ですので宜しくお願いします。

## 法人化検討委員会の活動報告

佐々木委員長 <(株)京信システムサービス>

昨年11月に発足しました法人化検討委員会は新年度に入り、5月20日、6月11日の2回検討委員会を開催し、要件整備項目、ビジョンの策定、業界企業の過半数参画の施策、事業の公益性、独立法人としての組織体の在り方の4項目についての具体的な討議に入りました。

現在は法人化を検討するうえで最も重要なビジョンの策定について検討を進めております。

今後とも会員各位のご指導のほど宜しくお願い致します。

## 会員ニュース

今春、山川ビジネス機器(株)様はグループ合併をされ山川株式会社となり、京情協の窓口はビジネス機器事業部に引き継がれることになりました。

代表取締役社長 山川 常七

代表取締役副社長 松浦 邦彦

住所：〒600-8101 京都市下京区河原町通  
五条角(山川ビル)

電話：075-352-1550(代表)

075-352-1555(保守部門直通)

FAX：075-352-1551

## \* \* 編集後記 \* \*

京都情報サービス産業協議会も、昨年12社の新会員を迎え37社となり、いよいよ法人化への取り組みも具体化しようとしています。

当会報も、1994年に第一号発行以来、今回で8号を発行する運びとなりました。当号を発行するにあたり企画広報部会では、従来ややもすれば事務局任せに成っていた会報を、より親しみやすい会報にしようと紙面刷新に取り組み、「インターキョウト」として発行する運びとなりました。

「インターキョウト」では、当協議会の活動状況、部会活動、会員情報等、より一層の紙面充実のために努めてまいる所存です。今後とも会員の皆様のご支援のほどよろしく願いいたします。

なお、「インターキョウト」の紙面刷新にあたり(株)カワイプロ様はじめ皆様にご多忙にもかかわらず大変ご尽力いただき、新しい紙面として発行できましたこと、感謝申し上げます。

